

はじめに

私はむくげの会創立メンバーのひとりです。創立は1971年1月のことですから、ずいぶん以前のことです。当時、「ベ平連（ベトナムに平和を！市民連合）神戸」のなかに生まれた「差別抑圧研究会」が発展解消してできた会で、朝鮮の言葉・歴史・文化を学ぶ会です。会の名のむくげ（木槿／無窮花）は、植民地支配下朝鮮での抵抗運動を象徴する花であるということからとりました。

当初は会の連絡メモのような「むくげ通信」は、その後、隔月刊の通信になっていきました。2018年3月現在で287号まで発行されています。よく続いたものです。

私もいろんな記事を書いてきましたが、この冊子はそのなかで「時評」などとして書いてきたものをまとめたものです。むくげ通信以外のものも一部含まれています。実は、単行本として出そうと集めてみたのですが、単行本にするほどの内容ではないと思いいたりしました。ですが1980年代の指紋押捺に反対する運動のなかで、その時々にかいたものなどは、いま発行しても少しは価値があるのではないかと考えてこのような形で出すことにしました。

この冊子はすべて手作り／DIYです。幸いむくげの会が事務所をおいている神戸学生青年センターには最新式の印刷機（リソグラフ）がありますが、これが優れもので60頁までの冊子であれば、原稿をセットするだけで、帳合、製本、ホッチキス止めそして折りまで自動でしてくれます。この印刷方式は、出版事情が経済的に厳しくなっている出版業界に“革命”を起こすかもしれません（？）。

版下は当時の通信をそのまま利用したものです。なつかしいガリ切りの時代のものもあります。最近が悪筆と批判されている私ですが、当時けっこうきれいなガリをきっていることに感心しています。ただし26号と31号は鹿嶋節子さん、46号と89号は飛田みえ子さんが書いてくださっています。また2010年11月号（243号）まではB5版ですので、本冊子では縮小しています。掲載は、一部編集上の都合で前後しているものを除いて発表年月日の順に掲載しています。

むくげの会はすでに何冊かの単行本の他に「むくげ叢書」を6冊まで刊行していますが、この冊子形式は、廉価で出したいものをすぐに出せるのがメリットです。この冊子シリーズを仮に「むくげ簡易印刷版叢書」と呼ぶことにします。この冊子はその1冊目となります。

読み返してみると、若気のいたりの恥ずかしい文章があったり、元気がありすぎていまでは感動するような（？）文章があったりもします。私自身の自己満足出版のような気もしますが、このように1冊にまとめて出すことに記録的な意味もそれなりにあるのではないかと考えています。どこからお読みいただいても、気になる文章だけお読みいただいてもご自由です。おつきあいをよろしくお願いします。表紙と裏表紙の絵は故志村三津子さんがむくげ通信のために書いてくださった絵を使わせていただきました。

（この冊子の印刷はまさにオンデマンド印刷、必要な部数だけを印刷します。ご覧になってもこれは面白いと思われたら宣伝をよろしくお願いします。定価は82円切手5枚分、420円とします。購入希望の方は、むくげの会（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内）に切手420円分をお送りください。送料はむくげの会で負担します。）